



学校だより

令和6年4月30日発行

立川市立若葉台小学校 校長 松村 利一
〒190-0001 立川市若葉町 1-13-1
TEL 042-536-3971 FAX 042-534-6943
HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>

子ども達の笑顔のために

校長 松村 利一

新年度がスタートして1か月が経とうとしています。風薫るさわやかな季節となってきました。4月の子ども達は、毎日元気いっぱい、やる気いっぱいの学校生活を送っていました。新年度が始まるにあたって、先生達には「子ども達のやる気をいっぱいほめてあげ、更なるやる気を引き出してください。」と伝えましたが、多くの子がやる気を持続したまま1か月を過ごすことができたようです。

しかし、個々の児童に話を聞いていると、「お友達つくるのが苦手なんだ。」「勉強苦手だから、あんまり発表とかしたくない。」など、自信なさそうにしている子や活動に消極的な子もいます。私は校長室の壁に大きく「子ども達の笑顔のために」という言葉を掲げているように、どの子もみんな自信をもって笑顔で学校生活を楽しんでほしいと願っています。だから、子ども達には、もっともっと自分の良いところに気が付いて、自分に自信をもってほしいと思っています。



日本の子ども達は諸外国に比べると自己肯定感が低いと言われています。では、子ども達の自己肯定感を高めるために、私たち大人はどんなことをしたらよいのでしょうか。学校では、友達との共同（協働）学習を多く取り入れ、友達から自分が受け入れられる場面を多くつくっています。（グループで考えを伝え合う場だと心理的圧力が少なくなり、発言をはじめ活動を伸び伸びできる）そのため、自分の考えを友達に受け入れてもらったり、自分の頑張りや働きを友達に認めてもらったりすることが多くあります。私も「とっても気持ちのよいあいさつだね。」「上手な字で書いているね。」「一方懸命にお掃除してくれているね。ありがとう。」など、子ども達の良さや成長を見つけて声をかけることを心がけています。



子どもを認めるという行為は、決して難しいことではありません。大切なことは、子どもをよく見て寄り添い、どんな小さな頑張りにも気付いてあげることです。ぜひ、ご家庭でもたくさんの働きかけをお願いいたします。

【お知らせ】

今年度本校では、東京都教育委員会や立川市教育委員会の支援を得て、「校内別室指導支援員」を配置することができました。これは、お休みが続いてしまって学校に行くにくくなってしまった児童や、集団の場が苦手な教室に入る前に少しお話を聞いてもらって安心してから教室に行きたい児童などを支援する取組です。学習に大きくつまづいてしまって、授業が楽しくない＝学校に行きたくないと思ってしまった児童がいたら、個別に学習の遅れを取り戻す支援をして、教室に戻れるようにしてあげるような役割も担います。支援員は、昨年度まで3年生以上の算数を担当していた 梅内 可奈子 先生が担当します。